

乳幼児期からの人権保育

～2歳の生活から考える～



保護者・周りのおとなと
ずっと一緒だったのが…

自我の芽生え

自我の芽生えが顕著にあらわれるこの時期、子どもたちは「自分でやりたい」「できるけどやってほしい」「甘えたい」という思いの間で、心もからだも揺れ動きます。

子どもの「自分でやりたい」が思いどおりにできた時、その体験は自信につながります。では、うまくできずにイライラしたり、自分でできるのにおとなに甘えたりする時には、私たちはどのような声かけ、かかわり方をしていけばよいでしょうか。

「おとなとのかかわり」「友だちとのかかわり」「もの・生きものとのかかわり」を中心に、具体的な場面をとおして一緒に考えていきましょう。

「自分でやりたい」と色々なことに興味を示し、行動するようになる。



揺れる2歳です!!

抱っこ
して～

食べ
させて～

イヤイヤ
〇〇したく
ない

着替え
させて



『甘えたい』

できるけど
やって
ほしい～

揺れる2歳児

やりたい
けど
できない

『自分で』

手伝わ
ないで

もっと
あそびたい

私が
するの!

見てて



こんなかわりしてしまっていないかな？

『甘えたい』子どもに対し…

- 「いつもしているからできるでしょ」
- 「前は自分でしていたのに！」
- 「ちょっと待ってね」と言いつつ、そのままにしてしまう。
- 「赤ちゃんみたい…」

『自分で』と主張する子どもに対し…

- 「早くして。もう〇〇の時間なのに」
- できないと決めつけてしまう。
- やろうとしていることを止めてしまう。
- おとなが全部してしまう。

おとなの都合で
考えてしまっていないかな!?



..... 大切にしたいこと

2歳児はおとなに甘え、心の支えを得ながら自立に向かって自分を大きくしていくとする気もちが最も育つ時期です。日によって自立と甘えが行ったり来たりします。じゅうぶん甘えて得た安心感が自立の土台になっていきます。

気をつけたいことは、子どものペースに合わせて甘えと自立につきあうことです。人とかわかって力を合わせたり、よりよい関係をつくるためにルールを守ったりするなど対人関係の基本となるのはもちろん、子ども自らが「やりたい」と思う気もちが様々な力を身につける基礎となるでしょう。

“子ども”にとって甘えられる安心できる場所があるといいですね。また“おとな”も安心できる場所が必要です。保育や子育てで悩んでいることを安心して話せる関係になっていけるといいですね。



言葉で伝えられず…

噛む…押す…モノを取る…



周囲のおとなの態度や言葉がけが、そのまままわりの子どもたちに伝わってしまうことも…

こんなかかわりしてしまっていないかな？

- 「～しちゃだめよ」と一方的に怒る。
- みんなの前で同じ子ばかり声をかけたり、注意したりしている。
- “またあの子ではないか”と決めつけてしまう。
- 友だちとトラブルがあった時、その場の様子だけで、思い込んで先に注意をする。
- 子どもからしっかり話を聞かずに、「ごめんねは？」と謝るように強要する。

ほんとはね…



あの子ばかり…

もっとやさしくしてほしい…

言葉でうまく言えなくて…

いつも怒られてばかりでなんだかイライラする…

わたしの話もきいてほしい…

あの子とあそびたい…

大切にしたいこと

- 「だめでしょ!」ではなく、まずは“どうしてそうしたのだろう”“そうしなければならなかったのだろう”と子どもの思いを聞くことが大切です。その後、「〇〇したかったんだね」と言葉で表現できない子どもの思いを受けとめたうえで、言葉を引き出していくことを大切にしていきましょう。
- 子どもは自分の思いが大切にされることで、“自分は大切な存在なんだ”と感ずることができ、その思いを基盤に相手の思いに気づき相手を思いやる気もちが育まれていきます。乳児期のこの積み重ねが、自分自身を大切にすること・相手を大切にすることにつながっていきます。
- よく名前を呼ぶ子やよく注意してしまっている子はいませんか? 私たちおとなが同じ子ばかりに声をかけたりみんなの前で注意したりすることで「あの子はいつも名前を呼ばれていいな」「あの子はいつも怒られている子」と子どもたちの決めつけや偏見につながっていくこともあります。身近なおとなや保育者が決めつけた見方をするのではなく客観的にその子の思いを考え、肯定的なかかわりや言葉かけをしていくことが大切です。
- 大切なのは「ごめんね」を言わせることではなく、相手が言いたかった気もちに気づくことです。その子の成長のために今一番何が大切かを考えることが大切です。

2歳児の“友だちとのかかわり”って??

自分の世界から、だんだん友だちの存在、友だちの思いに気づいていく2歳児…

友だちとのさまざまなやり取りは、人とのかかわり方を知っていく大切なプロセスでもあります。

<p>ひとりあそび</p> <p>楽しんで一人です</p>	<p>平行あそび</p> <p>自我とともに友だちの存在に気づく</p>
<p>かしてほしかったのかな</p> <p>友だちの思いを知る</p>	<p>自分の思いとおしたくてトラブルに</p>

「思いどおりにいかない」



こんなかかわりしてしまっていないかな？

- 「またないてるの？」
- 「早くしなさい」
- 時間がかかるからと手伝ってしまう。
- 「自分でできるでしょ」

実は…

- 手伝ってほしいけれど、自分でやってみたい
- うまうまなくてイライラ…
- くやしいーっ!

大切にしたいこと

おとなの言いなりになりたくない自分が育ってきている時期です。この時期の子どもは、泣いたり、怒ったり、激しい感情をだすことで自分と向き合い、気持ちを整理しています。

子どもが抱えている「甘えたい気持ち」と「自分でしたい気持ち」という相反した欲求の両方を丁寧に聞き、受けとめることが大切です。子どもは受けとめられ、自分のことを理解して支えてくれる人がいることで、安心して次の活動に進むことができるのです。

「好きなものへの執着」



こんなかかわりしてしまっていないかな？

- 「お友だちにも貸してあげなきゃダメでしょ」
- 「今はだめでしょ」
- 「どのせんせいでも(どこでも)一緒!早くしなさい!」
- 「みんなお片づけしたよ」

実は…

- あれもこれも好きなものはぜ～んぶ使いたい。
- この場所がおちつくの…。
- 〇〇せんせいは、自分のことをわかってくれる。

大切にしたいこと

この時期の子どもたちは自我の芽生えを経て、自分の好きなものに執着するようになります。お気に入りの場所や人まで、なんでも「自分のもの」にしてしまいます。「〇〇ちゃんにとって大切なんだね」と保育者や周りのおとなが主張を受けとめることで、子どもは安心感を得て、落ち着いて過ごすことができます。

自分の思いやイメージに執着し、強く主張をする時期ですが、おとなや周りの子とのやりとりを経験しながら、自分の気持ちをふり返ったり整理したりしていきます。そして、徐々に相手の気持ちに気づく力が育ってきます。「子どもの行動には必ず意味がある」のです。子どもの行為を心の表現としてまわりのおとながその子に言葉にして伝えていきたいですね。

「生きもの、自然とのかかわり」



こんなかかわりしてしまっていないかな？

- 「あーあ、つぶしたらダメでしょ！」
- 「水たまりに入ったら、泥んこになっちゃうでしょ！」
- 「そっとさわらなきゃダメでしょ！」
- 「危ないからダメ」

実は…

- 自分の手でつかまえない、さわってみたい(加減が難しくくて)。あーあ、つぶしちゃった。
- 雨あがりっていつもと違って不思議!おもしろい!
- 大きいお兄ちゃん、お姉ちゃんみたいにやってみたい。自分でためしてみたい。

大切にしたいこと

自然や小動物に触れることで、子どもは新たな一面を目のあたりにしたり、心を動かしたりします。そのような経験により、子どもは生命の不思議さや尊さに気づき、命あるものとして生きものや自然を大切にできる気持ちが子どものなかに育まれていきます。

おとなの先入観をうえつけず、子どもといっしょに自然にふれあいながら、保育者自身が楽しんで、それを子どもたちと共有し合うことで、子どもも自然にふれることが楽しくなっていきます。

興味をもったことに心を動かし、子どもの感性が広がっていく体験が、生きものや自然に主体的にかかわり、感じたことや考えたことを表現する力の基礎となります。幼児期になると友だちと共感することでその力が育まれ、さらに考えたり試したりすることが楽しいと思えるようになっていきます。

～人権保育プロジェクト活動から～

2019年度の人権保育プロジェクトでは、乳幼児期の子ども一人ひとりを尊重する“おとなのかかわり方”について話し合い、パンフレットにまとめました。

また、今年度はパンフレットにあわせた「絵カード」も作成しました。学習会等で子どもの言動の裏側にある気持ちを理解したり、子どもにどうかかわるかを出し合ったりするために活用していただければと思います。

子どもの育ちを見守るおとなとしての、よりよいかかわり方を私たちと一緒に考えていただけたらうれしいです。

2019年度人権保育プロジェクト メンバー一同

「マ」の2歳児

2歳児は、自我が芽生える大切な時期です。自他が少しずつ分離していくことで、子どもは自我を芽生えさせていきます。この時期特有の、子どもたちの「イヤイヤ」も今まで未分離だったおとなとの分離の契機です。この分離の過程では、自分の思い／他者の思い、自立／依存、安心／恐怖など様々な思いが子どもの中で交錯し、葛藤します。2歳児は、いつも相反する二つの思いの「間(マ)」にいます。

このような過程は、すべて、おとなのかかわり、子どものかかわり、物とのかかわりの「間(マ)」で生じます。おとなのかかわり、自立と依存の「間(マ)」で、子どものかかわり、同一と差異の「間(マ)」で、物とのかかわり、好き／嫌い、快／不快、できる／できないなど様々な感覚の「間(マ)」で、子どもの自我は形成されていきます。

ところで、人権という観点からも自我が芽生えるこの時期は、重要になります。権利をもつ一人ひとりの子どもの自我が育ち、自分があることがその子どもの人権を考える前提だからです。例えば、「子どもの権利条約」の第12条は、子どもが自分の意見を表明する権利を謳っています。しかし、権利の主体である子どもが、好き／嫌い、快／不快といった意見をもっていないのでは権利を行使することはできません。

繰り返しになりますが、このような子どもの自我は、様々なかかわりとおして形成されていきます。この時期の子どもを「間(マ)」の存在と捉え、豊かなかかわりが生まれる遊びと環境を考えていきたいものです。

人権保育プロジェクト アドバイザー 鈴鹿大学短期大学部 長澤 貴

このパンフレットは、
公益社団法人 三重県人権教育研究協議会の
ホームページからダウンロードできます。

<https://www.sandokyo.jp>



ホーム
ページ
QR
コード

- ▶2006年度／「節分・雛祭りを人権保育の視点で考える(中間報告)」
- ▶2007年度／「節分・雛祭りを人権保育の視点で考える(最終報告)」
- ▶2008年度／「いじめ対応の根っこにあるものは？」
- ▶2009年度／「多文化共生から人権保育を考える①」
- ▶2010年度／「多文化共生から人権保育を考える②」
- ▶2011年度／「多文化共生から人権保育を考える③」
- ▶2012年度／「多文化共生から人権保育を考える④」
- ▶2013年度／「自尊感情を育むには…」
- ▶2014年度／「自尊感情を育むには…②」
- ▶2015年度／「あそぼう!つながろう!～心をつなごう意図的なふれあい活動をどのように展開するか～」
- ▶2016年度／『ともに育ち合う保育～「障がい児共生保育」の視点から考える～』
- ▶2017年度／「ともに育ち合う保育～保護者とともに～」
- ▶2018年度／「乳児期からの人権保育～1歳の生活から考える～」
- ▶2019年度／「乳児期からの人権保育～2歳の生活から考える～」